

久喜市高校生環境ワークショップ

～埼玉県版気候変動ミステリーカードの活用～



久喜市気候変動適応センター

目次

1. はじめに

2. 久喜市の環境課題

3. 気候変動ワークショップ実施までの動き

4. 活動内容

5. まとめと今後の展望

はじめに 久喜市について



- ・ < 位置 > 都心まで約50 km、埼玉県の東北部
- ・ < 人口 > 約15万人、都心や県南部のベッドタウン
- ・ < アクセス > JR宇都宮線、東武伊勢崎線、東武日光線
東北自動車道（久喜IC）、圏央道（白岡菖蒲IC）

目次

1. はじめに

2. 久喜市の環境課題

3. 気候変動ワークショップ実施までの動き

4. 活動内容

5. まとめと今後の展望

久喜市の環境課題

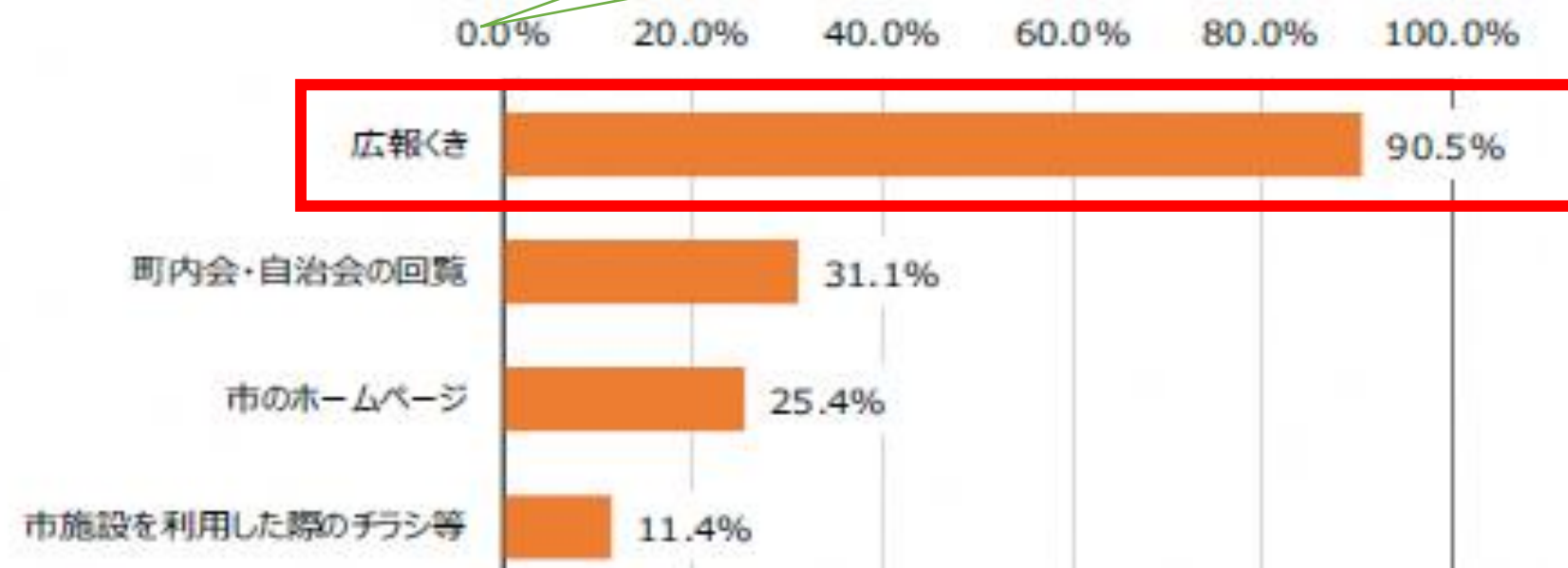
- ・ 広報紙を中心とした従来の情報発信

→ 若い世代へ環境情報が届かない

- ・ 環境審議会等の委員の高齢化

→ 若い世代からの意見が市の環境施策に反映できない

設問「環境に関する情報を入手するきっかけは何でしたか？」
最多90.5%が「広報紙」と回答



出典：令和4年市民アンケート結果

設問「広報紙を読んでいますか？」
若い世代ほど広報紙を読まない

年齢	読む	読まない
18～25歳	42.4%	57.6%
26～35歳	69.7%	30.3%
36～49歳	88.8%	11.2%
50～64歳	89.0%	11.0%
65歳以上	93.1%	6.9%

出典：日本広報協会2014年実施 静岡県某市

久喜市の環境課題

- ・ 令和5年3月策定「第2次久喜市環境基本計画」（地球温暖化対策実行計画区域施策編）の審議において、環境審議会委員から「**もっと若い世代の意見を聞いたほうが良い**」と意見あり
- ・ 環境審議会委員のひとり、田島洋助教（日本大学理工学部）から、**大学と共同**でワークショップをやってみたらどうかと提案が出される

→ 令和5年度より「**高校生ワークショップ**」の実施がスタート

目次

1. はじめに
2. 久喜市の環境課題
3. 気候変動ワークショップ実施までの動き
4. 活動内容
5. まとめと今後の展望

気候変動ワークショップ実施までの動き

- ・令和5年度は事務局が「桜」をテーマに設定し、計3回環境WS実施。クビアカツヤカミキリによる被害について有識者の講義、被害箇所での現地調査を行った。

→ WSをより発展させるため、根本の問題である「気候変動」について、**高校生の主体的な学び**を重視する方針で見直すこととした。



R4年度高校生ワークショップ（第2回）
現地調査の様様

気候変動ワークショップ実施までの動き

- ① **A-PLAT**で「気候変動適応のミステリー」の存在を知る (R5.9月)
- ② **日本大学理工学部**への相談 (R5.10月～随時)
 - ・ 実施方針の共有、全体計画の策定
- ③ **埼玉県気候変動適応センター**への相談 (R5.10月～R6.4月)
 - ・ 気候変動ミステリーの情報提供依頼⇒埼玉県地球温暖化防止活動推進員研修への参加
 - ・ 埼玉県版「ミステリーカード」の作成を依頼する
- ④ **関東地方環境事務所**への相談 (R6.1月)
 - ・ 類似事例の確認を行い、実現可能性についての助言を得る
- ⑤ **市内高等学校**への依頼 (R6.4月)
 - ・ 実施時期の調整、参加者の募集についての周知を依頼

目次

1. はじめに
2. 久喜市の環境課題
3. 気候変動ワークショップ実施までの動き
4. 活動内容
5. まとめと今後の展望

活動内容① ミステリーカード作成



埼玉県で農家を営む大澤さん一家は、青パパイヤに着目し、生産に取り組んでいる。この青パパイヤは、栽培が比較的容易であり、防除作業もいらないため、遊休農地の解消にも大きく貢献している。

近年、異常気象による猛暑が増えることで、埼玉県でも熱帯性の作物であるパパイヤが食卓に出回る機会も増えるかもしれない。



埼玉県内の公園で娘が遊んでいたところ、クモに咬まれてしまった。

「かなり大きなクモで背中に赤い線があったと」娘は言っている。痛みが出てきてから、両親は心配になり娘を病院に連れて行った。

診断結果はもうすぐわかるだろう。

図出典：NHK 首都圏ナビ「首都圏のニュースや暮らしを豊かにする情報を届けます」

<https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20221114a.html>

埼玉県環境科学国際センター作成のミステリーカードの例

- ・ WS参加者が気候変動を身近な問題として認識できるようA-PLAT掲載の「気候変動適応のミステリー」を埼玉県の事例と差し替えることとした。

→ 埼玉県気候変動適応センターが中心となり「埼玉県版ミステリーカード」作成

活動内容②第1回ワークショップ (6/16)

- ・ 公募の結果、高校生9名がWS参加。
- ・ 第1回では参加者が2班に分かれ、ミステリーカードを用いて議論し、最終的に代表者が発表を行った。各班にはファシリテーターとして日本大学理工学部の学生が参加した。

→ カードに描かれた事象のうち、「コメ」、「青パイヤ」を研究テーマとすることを各グループの話し合いで決定した。



ミステリーカードを使った議論の様子
中央のファシリテーターは日本大学理工学部の学生

活動内容③第2回ワークショップ (7/21)

- ・講師として招いた埼玉県春日部農林振興センター、JA南彩から高温耐性米「彩のきずな」や「青パイヤ」の導入経緯や現状の課題についてヒアリングを行う。

→ いずれのテーマも課題は「**認知度向上**」にあるとし、各班で解決手段を検討することとなった。



JA南彩職員が青パイヤの栽培を始めた経緯の説明を行う

活動内容④成果物について

- 「コメ」班は「彩のきずな」の認知度向上のためのポスターを作成、消費者の目に入るようJA直売店に掲示を行った。



「コメ」班の高校生作成ポスター

活動内容④成果物について

- ・「青パイヤ」班はレシピを紹介する動画を作成し、**市公式YOUTUBEチャンネルに掲載**、若い世代に親和性が高い手法での情報拡散を狙った。



「青パイヤ」班の調理動画
(久喜市公式YOUTUBEチャンネル)
https://youtube.com/shorts/3W42gVxBL_0



活動内容⑤成果発表会 (9/22)

- ・ワークショップの締めくくりとして「SAITAMA環境フェア&子どもエコフェスティバル」（主催：埼玉県、イオンモール上尾）において、大学生とともに研究成果のステージ発表を行った。



ステージ発表



終了後の集合写真

目次

1. はじめに
2. 久喜市の環境課題
3. 気候変動ワークショップ実施までの動き
4. 活動内容
5. **まとめと今後の展望**

まとめと今後の展望

- 「若い世代の声を聞きたい」は行政の都合
 - 高校生、大学生、行政にそれぞれ参加するメリットが必要
- 地域の関係者の協力なくしては実現できない
 - 気軽に相談できる関係づくりが重要
- 参加者の確保が課題、継続的な取り組みとするために
 - 来年度は埼玉県気候変動適応センターとの共同主催で調整中

最後に

特別な知見を持たない久喜市でこの事業が実現できたのは、地域の関係者がそれぞれの立場で前向きに取り組んでくれたおかげでした。

市役所は地域の人的資源をつなぐ「ハブ」のような存在です。

ぜひ、皆様も地域人材と連携し、環境学習の輪を広げてみてください。

ご清聴ありがとうございました。